

## &lt;様式1&gt;

研究課題名	当院における <i>Mycobacterium abscessus</i> complex (MABC) の検出状況の分析および薬剤感受性の検討
本研究の目的	我が国の非結核性抗酸菌 (NTM) 症は近年増加傾向で 2014 年には罹患率が結核を上回ったと報告されている。迅速発育抗酸菌は <i>Mycobacterium avium</i> complex (MAC), <i>Mycobacterium kansasii</i> に次いで多いと報告されている。迅速発育抗酸菌である <i>Mycobacterium abscessus</i> complex (MABC) による肺感染症は増加率が高く進行が早く治療難治性とされ、早期診断・早期治療は重要と思われる。MABC には <i>M. abscessus</i> , <i>M. bolletii</i> , <i>M. massiliense</i> の 3 亜種に分類され、一般的に多くの抗菌剤に耐性であるが菌種によって薬剤感受性が異なり 3 亜種間での治療成績に違いが指摘されている。治療においては多剤併用療法が推奨されているが、MABC はマクロライドに対する誘導遺伝子 <i>erm</i> (41) の活性の有無によって感受性の差が認められるが、 <i>M. massiliense</i> においては誘導耐性活性を欠いているため、MABC の診断・治療において、亜種の同定、薬剤感受性試験は重要となる。当院においては MABC の過去に MABC の分離がやや多い病棟が認められ、監視が重要な状況となっているが、外来を含めた当院の分離状況を把握し、分離菌のマルチプレックス PCR 法と核酸クロマト法による亜種の同定と微量液体希釈法による薬剤感受性試験を実施し、当院の状況を把握し、今後の診断・治療に役立てる。
研究期間	倫理委員会承認後～2024 年 3 月 31 日
調査データ該当期間	2020 年 4 月 1 日～2023 年 12 月 31 日
研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象 <i>Mycobacterium abscessus</i> complex 感染症が疑われる患者</li> <li>●用いる試料・情報 <i>Mycobacterium abscessus</i> complex 感染症が疑われる患者から分離された保存菌株および研究期間内に分離された菌株及び患者情報</li> </ul>
お問い合わせ先	電 話：0944-58-1122 (代表) 研究責任者：香月 耕多 (臨床検査科 臨床検査技師長)